（別表第1の3）

評 価 結 果 概 要 表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870600719
法人名	株式会社　ジェイコム
事業所名	グループホームまなべ
所在地	西条市氷見乙769番地
自己評価作成日	平成　25　年　12　月　20　日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成　26　年　1　月　14　日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

一人ひとり自分のペースで過ごせるよう配慮している。月に1回は季節感を味わってもらうため花見学に出かけたり、社会との関わりを持つため外食に出かけている。一方体力や筋力が維持できるよう散歩に出かけたり、自己リハビリ、廊下歩行、階段の上り下りを続けている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

開設12年を経た事業所は、花見や敬老会、防災訓練などを地域に呼びかけて一緒に行うことで、地域や地域住民との深い関わりを築いてきている。母体病院と医療連携が図られており、受診や相談をスムースにすることができ、今後、リハビリなど作業療法士との連携にも取り組んでいく予定である。食事は、職員が毎食手作りしており、季節の食材を取り入れて調理し、利用者と職員は同じ食事をとり、食卓を囲んで楽しく食べている。地域社会とのつながりを意識して、外食や外出の支援に取り組んだり、訪問を大切にするなど、利用者の楽しみやこれまでの人生を尊重して支援している。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

（別表第1の2）

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目
（評価項目の構成）

Ⅰ.理念に基づく運営

Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

Ⅲ.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】
- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居（ユニット）ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

（注）自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について
- ●家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。（他に「家族」に限定する項目がある）
- ●運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）。
- ●職　員＝「職員」には、管理者及び非常勤職員を含みます。
- ●チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をＰＲ!!!

ーサービス向上への３ステップー

事業所名	グループホーム　まなべ
（ユニット名）	1階
記入者（管理者）	
氏　名	高橋　みゆき
評価完了日	平成　25　年　12　月　20　日

（別表第１）

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」＋「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項　　目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容（外部評価のみ）
Ⅰ.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	（自己評価） 運営理念を全職員が理解するように努め、また、共有できるように玄関ホールに掲げ各自名札の裏にも記載し、実践につなげることができるよう取り組んでいる。	
			（外部評価） 事業所独自の理念を作成し、利用者の立場に立った介護計画やケアを行うことを職員一人ひとりが意識して実践している。理念は事業所の目立つところに掲げているほか、名札の裏にも記載して職員間で共有している。また、毎月の目標を掲げ、実践できるよう努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	（自己評価） 散歩や外気浴のとき挨拶や会話を交わし、お花見、お祭り、小学生慰問、奉仕作業、合同防火訓練等を通じて交流を深めている。	
			（外部評価） 管理者と職員は共に地域との関わりを多く持ちたいと考えており、花見や敬老会、防災訓練などを地域住民と一緒に実施するなど、積極的に交流をしている。自治会に加入しており、自治会の防災訓練や清掃作業に参加するなど、相互の協力関係を築いている。近所のお旅所で行う花見は、自治会員やボランティアにも呼びかけて開催しており、利用者と一緒に楽しんでいる。また、小学生が合奏や合唱で訪問してくれたり、高校生の職場体験を受け入れたりするなど、交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	（自己評価） 施設側からは積極的に取り組んではいないが、地域運営推進会議等で質問等あればお答えしている。	

自己評価	外部評価	項　　目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容（外部評価のみ）
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	（自己評価） 運営推進会議は２ヶ月に１回開催し利用者様の状況報告、職員の活動報告、サービスの取り組みについて報告している。また火災時や災害時の協力を依頼している。 （外部評価） 運営推進会議は家族、自治会長、自治会住民、老人会長、地域包括支援センター職員等の参加を得て開催している。会議には地域住民の参加が多く、防災に対する意見など積極的な意見が出されており、事業所に対して気を配ってもらっている。外部評価の報告を行うなど、出された意見を活かして、より良いサービスが提供できるよう取り組んでいる。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	（自己評価） 運営推進会議に地域包括センターの職員に参加してもらいアドバイスをもらっている。また実施指導を通じて事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら相談しアドバイスをもらっている。 （外部評価） 地域包括支援センター職員が運営推進会議に参加し、事業所の報告を行うほか、新たな情報や意見をもらっている。市主催の研修案内があり、参加して情報交換をしている。また、月１回介護相談員の訪問があり、利用者の良き相談相手となっている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	（自己評価） 日中玄関の施錠はしておらず自由に屋外に出られる。利用者様が外へ出られるときは職員が付き添い見守る。また、身体拘束いついて全職員が勉強会や研修を通じて正しく理解している。 （外部評価） 毎月、勉強会を開催しており、拘束の範囲や種類を話し合うなど、職員は理解して身体拘束をしないケアを実践している。日中玄関は施錠しておらず、外出希望のある利用者には、職員が一緒に散歩に付き添うなど、気分転換が図れるよう努めている。職員が持ち場を離れる場合は職員同士で声をかけ合うなど、利用者の自由な生活を見守る様子が伺えた。	

自己評価	外部評価	項　　目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容（外部評価のみ）
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	（自己評価） 研修や勉強会に参加し高齢者虐待防止法について学び、共有し意識を高め虐待防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	（自己評価） 実際に支援する事例はない。研修等には参加しているが話し合いはされていない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	（自己評価） 入所前に面接し、十分説明し、理解を得たうえで契約、解約している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	（自己評価） 家族様が来館したときに生活記録を開示し要望や意見を聞いている。 （外部評価） 職員は家族と直接会って利用者の様子を伝え、意見や要望を聞くよう心がけている。家族から要望を言い表しにくいことを心得ており、職員は話しやすいような雰囲気づくりに努めている。毎月、家族に「日常生活報告書」を送付し、利用者の現状を伝えることができるように工夫している。また、敬老会の開催時に家族会を開催し、家族同士の悩みや意見交換ができるように努めている。	

自己評価	外部評価	項　　目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容（外部評価のみ）
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	（自己評価） 毎月のケース会にて意見交換し、よりよい改善に向けて取り組んでいる。 （外部評価） 管理者は職員から相談や意見が出された場合は、会社へ報告している。また、月１回、会社では管理職会を開催し、管理者は事業所の様子や職員から出された意見などを報告することができる。職員から利用者のリハビリを実施したいとの意見が出され、現在、母体病院の看護師や作業療法士と連携を取りながら実施していく方向で話し合われるなど、職員の意見が反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	（自己評価） 管理者やユニットリーダーは自ら資格を取得し、各自にやりがいや向上心を持つよう資格取得をすすめている。　給料水準は資格を取得しても十分に反映されているとは言えない。勤務状況や労働時間は配慮されている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	（自己評価） 個々の経験年数に応じた法人内外の研修を確保し、技術や知識を身につけ、それを現場でフィードバックしている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	（自己評価） 介護サービス連絡会、社会福祉士会生涯研修等に参加し知識の修得や情報交換を行い、サービスの質の向上に努めている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	（自己評価） 入居時や早期に本人と面接をし、要望、意向を傾聴し信頼関係構築に努めている。	

自己評価	外部評価	項　　目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 （外部評価のみ）
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	（自己評価） 早期に入居経過を報告し、家族様が困っていること、不安、要望などについて傾聴し職員間で情報を共有し統一したケアができるよう努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	（自己評価） 困っていることや、要望を聞き職員間で情報を共有し、統一したケアをし、安心して生活できるよう努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	（自己評価） 職員は常に利用者様を理解しようと努めている。信頼関係を築けるよう会話はもちろん、非言語的コミュニケーションを大切にしている。また残存機能を生かしできることはしてもらっている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	（自己評価） 面会時には生活記録を開示し毎月、日常生活報告書を送り様子を報告している。また、体調の変化やケガなど事故が起きた時は随時報告している。安心して頂けるよう努めている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	（自己評価） 馴染みの人が来館された時は自室でゆっくり話せるよう支援している。個人的に出かけたい所があればできる限り支援している。 （外部評価） 塾の先生をしていた利用者の教え子が、旅行や外食などの外出支援をしてくれることがあり、利用者は楽しみにしている。以前利用していたケアハウスから友人が訪問してくれたり、病院へのお見舞いなど、利用者の馴染みの関係が継続できるよう支援している。訪問者は面会簿に記載し、馴染みの人を職員間で把握するようにしている。	

自己評価	外部評価	項　　目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容（外部評価のみ）
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	（自己評価） 利用者同士が関わりあえるよう家事等は同じテーブルでしている。レクリエーションは利用者様が孤立しないよう職員が参加を促している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	（自己評価） 退去時は次のサービスにつなげているが、その後はあまり関わることはない。	
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	（自己評価） 家族様や利用者様本人から生活歴や習慣を聞き、大切にしてきたことや好きだったことをできるよう支援している。困難な場合は、会話の中でその人の思いをくみ取るよう努めている。 （外部評価） 利用者や家族から聞き取り、利用者の思いや意向、生活歴などをアセスメントシートに記入し把握している。新たに知り得た情報は、追加して記入し職員間で共有できるように努めている。また、介護相談員から新たな情報を聞く場合もあり、思いや意向の把握の一助となっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	（自己評価） 本人、家族様から生活歴や習慣を聞き、これまでのサービス提供者である介護支援専門員からの情報と併せてこれからのサービスに生かしている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	（自己評価） 既往歴の把握や毎日の定期的なバイタルチェックをし、注意深く様子観察をしている。申し送りやケース会で情報を共有している。	

自己評価	外部評価	項　　目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 日々の生活の中から思いをくみ、毎月ケース会を開き、その人らしい生活ができるよう家族の意見を反映し、モニタリング、アセスメントを行い、全員で検討しケアプランの評価をしている。 (外部評価) 利用者毎の担当制を取っており、家族等の意見を反映して担当職員が介護計画の原案を作成し、会議で職員間で話し合い作成している。介護計画は職員の気づきと提案を大切にし、利用者が挑戦していきたいことを盛り込んでいる。モニタリングは３か月に１回行い、評価をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個別の生活記録に細かく記録している。申し送りや申し送りノートにより職員間で情報が共有され、支援に生かされている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) その時の変化に応じて職員や家族様と相談し最良と思われる方法で支援している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 移動図書館の利用に自治会を通して防災訓練に参加したり、地方祭を楽しんだりしている。また、ボランティアの方々の協力による歌、楽器演奏を楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項　　目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 母体の病院より、毎週往診があり、体調の悪い利用者様は病院と連携し受診している。本人様、家族様の意向をもとに適切な医療を受けられるよう支援している。 (外部評価) 夜間の対応も可能で、毎週往診があり健康管理をしていることから、母体病院の協力医をほとんどの利用者はかかりつけ医としている。母体病院に事業所担当の看護師がおり、スムーズに相談することができる。協力医への受診は、職員が同行して対応している。また、専門医への受診は、家族の協力を得て受診することができる。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 母体の病院には、担当の看護士がおり、利用者様の状態に変化があるときは相談し、適切な受診や看護を受けられる。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 母体の病院にほとんど入院するため、連携体制は整っている。家族様や利用者様に安心して入退院をしてもらえる。また、早期退院に向けて、家族様、医師、看護士とも十分話し合いリハビリを行う。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 早い段階から重度化した場合や終末期に向けた話し合いを行い、利用者様がよりよい環境で生活できるよう、他施設の利用を視野に入れ提案し、利用者様本位で支援を行っている。 (外部評価) 入居時に、事業所には看護師がいないことと、事業所で対応できる内容を利用者や家族に説明している。利用者が重度化した場合には、他の施設等への変更を含め、家族に検討してもらっている。また、「緊急時対応の同意書」を利用者や家族に記入してもらい、緊急時の希望を確認し、職員間で共有している。	

自己評価	外部評価	項　　目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容（外部評価のみ）
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	（自己評価） 定期的に心肺蘇生やＡＥＤの使用方法、応急手当など、消防職員を招き、講習を受けている。急変時の対応マニュアルも作成している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	（自己評価） 定期的に避難訓練を実施している。運営推進会議において、災害時、火災時には協力を依頼している。避難経路、避難場所は全職員把握している。災害時のマニュアルも作成している。 （外部評価） 消防署の協力を得て避難訓練を実施している。訓練では、夜間の火災を想定して非常階段からの避難を行い、消防署からアドバイスをもらうなど、反省を行いながら繰り返し訓練をしている。今年度は、自治会の防災訓練の日に合わせて約３０名の自治会員の参加協力を得て、事業所の避難訓練を実施した。また、自治会の参加者に事業所内部の構造や訓練の様子を見てもらい、訓練の意見をもらうなど地域との協力体制が築かれている。	
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	（自己評価） 勉強会やケース会で利用者様の自尊心を傷つけない声かけや対応を心がけている。個人情報保護法に基づき、利用者様の個人情報を外部に向けてもらさないようにしている。 （外部評価） 年間計画を立て、月１回職員が講師となり勉強会を開催している。認知症ケアなどのテーマで、利用者の尊重やプライバシーの確保など、職員は理解して対応している。トイレや着替えの介助時には、扉を閉めて利用者のプライバシー保護に努めている。職員は、利用者の誇りや自尊心、これまでの人生を尊重したいとの思いを持って支援している。	今後、管理者は個別ケアに力を入れていきたいと考えており、より一層利用者一人ひとりの思いや意向の把握に努め、利用者の人生を尊重して支援する取組みを期待したい。また、新人教育では、利用者の尊厳を大切にする意識が根付くよう働きかけ、サービスの質の向上につながる取組みを期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	（自己評価） 利用者様の表情やしぐさ、利用者様同士の会話の中から思いや気持ちをくみとり、自己決定できるよう誘導している。	

自己評価	外部評価	項　　目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容（外部評価のみ）
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	（自己評価） 利用者様一人ひとりのペースを大切にしている。生活のリズムや体調に合わせ、無理をしないようできるだけ希望にそった支援をしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	（自己評価） 自分で服を選べる人は自分で選んでもらっている。自分で選べない人は、職員が一緒に選んだり、家族様が選んだりする。服装や髪の乱れは職員が気を配っている。散髪は定期的に散髪屋さんがホームに来てしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	（自己評価） 利用者様に食事の下ごしらえをしてもらっている。食事のときは職員も利用者様と一緒に食べて楽しく会話をしながら食べている。食後はお盆拭きをしてもらい、その人の力を生かしている。 （外部評価） 職員がユニット毎に季節の食材や畑で取れた野菜を使い、手作りの料理を提供している。利用者の好きなメニューを聞き、お寿司や煮物など好みのものを提供したり、庭に出てカレーを食べたりするなど、利用者が食事を楽しめるよう工夫をしている。利用者と職員が同じ食卓を囲み、同じ食事を楽しそうに食べている。朝食には、パン食を好む利用者にも対応している。また、ユニット毎に外食の計画を立てたり、花見にはお弁当を持って出かけたりしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	（自己評価） 毎日の食事量、水分量を記録している。食事量や水分量が不足しているときは摂取してもらえるように工夫している。食器も軽くて持ちやすいものにしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	（自己評価） 毎食後、口腔ケアを行っている。ある程度自分で磨いてもらい、職員が洗えていないところを磨いている。	

自己評価	外部評価	項　　目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容（外部評価のみ）
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	（自己評価） 排泄の記録をとり、排泄パターンを把握し、適宜トイレ誘導している。変化があったときにはケース会で話し合い共有している。羞恥心に配慮している。 （外部評価） 利用者がトイレで排泄できるように努めている。排泄の記録を基に排泄パターンを把握し、利用者に合わせてトイレ誘導を行っている。目が見えにくい利用者には、夜間にポータブルトイレを使用してもらうなど、できるだけ利用者自身で排泄できるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	（自己評価） ヨーグルトなどの整腸作用のあるものを摂ったり、水分を多く摂ってもらっている。また、運動や散歩を促している。一人ひとりの排泄パターンを把握し、自然排便に努めている。必要に応じて医師に相談し便秘薬で対応している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	（自己評価） 利用者様のプライバシーを確保しながら、自立している利用者様は本人のペースを見守っている。入浴の順番を配慮している。立位が困難な利用者様はシャワー浴をしている。 （外部評価） 週２回を基本として入浴することができ、利用者の希望に応じて、毎日入浴することができる。浴室には、家庭浴槽が設置され、浴槽をまたぐことが困難な利用者には、毎朝足浴をしたり、シャワー浴をしたりして対応している。浴槽に入浴剤を入れることもあり、利用者がリラックスして入浴が楽しめるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	（自己評価） その日の利用者様の体調に合わせていつでも休息できるようにしている。部屋の温度や湿度、明るさや音にも配慮している。	

自己評価	外部評価	項　　目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服薬ファイルがあり、確認している。変更時は申し送り、申し送りノートで確認している。誤薬がないよう薬が入っている袋に名前、日付、朝、昼、夕と記し、服薬する前に本人の前で声に出し復唱している	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 一人ひとりのできることを見出し、楽しんでもらっている。季節に合わせて行事計画を立て、外出したり、散歩や外気浴をし、気分転換を等の支援をしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 利用者様の体調や天候に合わせて外気浴や散歩をしたり、買い物に出かけている。家族様と食事に行く利用者様もいる。 (外部評価) 駐車場に設置しているパラソルの下で、歌を歌ったり体操をしたり、レクリエーションを楽しみながら、順番に散歩に出かけられるよう支援している。また、職員と一緒に近くのスーパーに買い物に行くこともある。季節に応じて、花見や紅葉狩り、温泉に足湯や外食に出かけたりできるよう支援している。また、家族の協力を得て外出をする利用者もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) お金を管理している利用者はいない。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 家族様から電話はあるが、こちらからかけることはない。数名の利用者様は年賀状を出している。	

自己評価	外部評価	項　　目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容（外部評価のみ）
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	（自己評価） 季節の草花を玄関周りや花壇に植え、畑には季節に合わせた作物を作り、季節感を感じてもらっている。また、季節に合わせたディスプレイを玄関やリビングに掲示している。 （外部評価） 玄関やテーブル、洗面台など随所に生け花が飾られ、季節感や自然の華やかさを感じることができる。共用空間の加湿や換気に注意し、利用者が気持ちよく健康的に過ごせるよう配慮している。掃除は、利用者と一緒にモップをかけたり窓の溝をふいたりして、清潔が保たれている。事業所の横には畑や花壇、パラソル付きのテーブルセットが置いてあり、外気浴などを楽しむことができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	（自己評価） 気の合う利用者様が談話したり、テレビが観えるよう適度な距離間は保てるよう配慮している。廊下にソファーを置き、気分転換できるようにしている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	（自己評価） 家族様に依頼し、馴染みのものを持って来てもらったり、写真を持ってきてもらったりしている。居室内には写真を貼り、居心地よく過ごせるような工夫をしている。 （外部評価） 居室は、利用者の使い慣れた物など思い思いのものを持ち込み、レイアウトを工夫するなど一人ひとり特色のある空間となっており、生活感が伝わってくる。壁には大きく引き伸ばした家族や行事の写真を飾っている利用者もいる。物がありすぎると混乱が起こる利用者の居室には、物を少なくしシンプルにしている。 ベッドから転落の危険のある利用者には、床に布団を敷いて対応するなど、利用者の身体状況に合わせた居室づくりをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	（自己評価） 居室にはネームプレートを表示し、トイレや浴室の場所も分かるように工夫している。また、廊下には手すりがあり、それを利用し、歩行訓練や自己リハをしている。	

（別表第1の3）

評 価 結 果 概 要 表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870600719
法人名	株式会社　ジェイコム
事業所名	グループホームまなべ
所在地	西条市氷見乙769番地
自己評価作成日	平成　25　年　12　月　20　日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成　26　年　1　月　14　日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

一人ひとり自分のペースで過ごせるよう配慮している。月に1回は季節感を味わってもらうため花見学に出かけたり、社会との関わりを持つため外食に出かけている。一方体力や筋力が維持できるよう散歩に出かけたり、自己リハビリ、廊下歩行、階段の上り下りを続けている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

開設12年を経た事業所は、花見や敬老会、防災訓練などを地域に呼びかけて一緒に行うことで、地域や地域住民との深い関わりを築いてきている。母体病院と医療連携が図られており、受診や相談をスムースにすることができ、今後、リハビリなど作業療法士との連携にも取り組んでいく予定である。食事は、職員が毎食手作りしており、季節の食材を取り入れて調理し、利用者と職員は同じ食事をとり、食卓を囲んで楽しく食べている。地域社会とのつながりを意識して、外食や外出の支援に取り組んだり、訪問を大切にするなど、利用者の楽しみやこれまでの人生を尊重して支援している。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

（別表第1の2）

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目
（評価項目の構成）

Ⅰ.理念に基づく運営

Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

Ⅲ.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】
- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居（ユニット）ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

（注）自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について
- ●家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。（他に「家族」に限定する項目がある）
- ●運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）。
- ●職　員＝「職員」には、管理者及び非常勤職員を含みます。
- ●チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をＰＲ!!!

ーサービス向上への３ステップー

事業所名	グループホーム　まなべ
（ユニット名）	2階
記入者（管理者）	
氏　名	高橋　みゆき
評価完了日	平成　25　年　12　月　20　日

（別表第１）

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」＋「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項　　目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容（外部評価のみ）
Ⅰ.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	（自己評価） 運営理念を全職員が理解するように努め、また、共有できるように玄関ホールに掲げ各自名札の裏にも記載し、実践につなげることができるよう取り組んでいる。	
			（外部評価） 事業所独自の理念を作成し、利用者の立場に立った介護計画やケアを行うことを職員一人ひとりが意識して実践している。理念は事業所の目立つところに掲げているほか、名札の裏にも記載して職員間で共有している。また、毎月の目標を掲げ、実践できるよう努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	（自己評価） 散歩や外気浴のとき挨拶や会話を交わし、お花見、お祭り、小学生慰問、奉仕作業、合同防火訓練等を通じて交流を深めている。	
			（外部評価） 管理者と職員は共に地域との関わりを多く持ちたいと考えており、花見や敬老会、防災訓練などを地域住民と一緒に実施するなど、積極的に交流をしている。自治会に加入しており、自治会の防災訓練や清掃作業に参加するなど、相互の協力関係を築いている。近所のお旅所で行う花見は、自治会員やボランティアにも呼びかけて開催しており、利用者と一緒に楽しんでいる。また、小学生が合奏や合唱で訪問してくれたり、高校生の職場体験を受け入れたりするなど、交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	（自己評価） 施設側からは積極的に取り組んではいないが、地域運営推進会議等で質問等あればお答えしている。	

自己評価	外部評価	項　　目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容（外部評価のみ）
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	（自己評価） 運営推進会議は２ヶ月に１回開催し利用者様の状況報告、職員の活動報告、サービスの取り組みについて報告している。また火災時や災害時の協力を依頼している。 （外部評価） 運営推進会議は家族、自治会長、自治会住民、老人会長、地域包括支援センター職員等の参加を得て開催している。会議には地域住民の参加が多く、防災に対する意見など積極的な意見が出されており、事業所に対して気を配ってもらっている。外部評価の報告を行うなど、出された意見を活かして、より良いサービスが提供できるよう取り組んでいる。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	（自己評価） 運営推進会議に地域包括センターの職員に参加してもらいアドバイスをもらっている。また実施指導を通じて事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら相談しアドバイスをもらっている。 （外部評価） 地域包括支援センター職員が運営推進会議に参加し、事業所の報告を行うほか、新たな情報や意見をもらっている。市主催の研修案内があり、参加して情報交換をしている。また、月１回介護相談員の訪問があり、利用者の良き相談相手となっている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	（自己評価） 日中玄関の施錠はしておらず自由に屋外に出られる。利用者様が外へ出られるときは職員が付き添い見守る。また、身体拘束いついて全職員が勉強会や研修を通じて正しく理解している。 （外部評価） 毎月、勉強会を開催しており、拘束の範囲や種類を話し合うなど、職員は理解して身体拘束をしないケアを実践している。日中玄関は施錠しておらず、外出希望のある利用者には、職員が一緒に散歩に付き添うなど、気分転換が図れるよう努めている。職員が持ち場を離れる場合は職員同士で声をかけ合うなど、利用者の自由な生活を見守る様子が伺えた。	

自己評価	外部評価	項　　目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容（外部評価のみ）
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	（自己評価） 研修や勉強会に参加し高齢者虐待防止法について学び、共有し意識を高め虐待防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	（自己評価） 実際に支援する事例はない。研修等には参加しているが話し合いはされていない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	（自己評価） 入所前に面接し、十分説明し、理解を得たうえで契約、解約している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	（自己評価） 家族様が来館したときに生活記録を開示し要望や意見を聞いている。 （外部評価） 職員は家族と直接会って利用者の様子を伝え、意見や要望を聞くよう心がけている。家族から要望を言い表しにくいことを心得ており、職員は話しやすいような雰囲気づくりに努めている。毎月、家族に「日常生活報告書」を送付し、利用者の現状を伝えることができるように工夫している。また、敬老会の開催時に家族会を開催し、家族同士の悩みや意見交換ができるように努めている。	

自己評価	外部評価	項　　目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容（外部評価のみ）
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	（自己評価） 毎月のケース会にて意見交換し、よりよい改善に向けて取り組んでいる。 （外部評価） 管理者は職員から相談や意見が出された場合は、会社へ報告している。また、月１回、会社では管理職会を開催し、管理者は事業所の様子や職員から出された意見などを報告することができる。職員から利用者のリハビリを実施したいとの意見が出され、現在、母体病院の看護師や作業療法士と連携を取りながら実施していく方向で話し合われるなど、職員の意見が反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	（自己評価） 管理者やユニットリーダーは自ら資格を取得し、各自にやりがいや向上心を持つよう資格取得をすすめている。　給料水準は資格を取得しても十分に反映されているとは言えない。勤務状況や労働時間は配慮されている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	（自己評価） 個々の経験年数に応じた法人内外の研修を確保し、技術や知識を身につけ、それを現場でフィードバックしている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	（自己評価） 介護サービス連絡会、社会福祉士会生涯研修等に参加し知識の修得や情報交換を行い、サービスの質の向上に努めている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	（自己評価） 入居時や早期に本人と面接をし、要望、意向を傾聴し信頼関係構築に努めている。	

自己評価	外部評価	項　　目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 早期に入居経過を報告し、家族様が困っていること、不安、要望などについて傾聴し職員間で情報を共有し統一したケアができるよう努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 困っていることや、要望を聞き職員間で情報を共有し、統一したケアをし、安心して生活できるよう努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 職員は常に利用者様を理解しようと努めている。信頼関係を築けるよう会話はもちろん、非言語的コミュニケーションを大切にしている。また残存機能を生かしできることはしてもらっている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会時には生活記録を開示し毎月、日常生活報告書を送り様子を報告している。また、体調の変化やケガなど事故が起きた時は随時報告している。安心して頂けるよう努めている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 馴染みの人が来館された時は自室でゆっくり話せるよう支援している。個人的に出かけたい所があればできる限り支援している。 (外部評価) 塾の先生をしていた利用者の教え子が、旅行や外食などの外出支援をしてくれることがあり、利用者は楽しみにしている。以前利用していたケアハウスから友人が訪問してくれたり、病院へのお見舞いなど、利用者の馴染みの関係が継続できるよう支援している。訪問者は面会簿に記載し、馴染みの人を職員間で把握するようにしている。	

自己評価	外部評価	項　　目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容（外部評価のみ）
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	（自己評価） 利用者同士が関わりあえるよう家事等は同じテーブルでしている。レクリエーションは利用者様が孤立しないよう職員が参加を促している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	（自己評価） 退去時は次のサービスにつなげているが、その後はあまり関わることはない。	
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	（自己評価） 家族様や利用者様本人から生活歴や習慣を聞き、大切にしてきたことや好きだったことをできるよう支援している。困難な場合は、会話の中でその人の思いをくみ取るよう努めている。 （外部評価） 利用者や家族から聞き取り、利用者の思いや意向、生活歴などをアセスメントシートに記入し把握している。新たに知り得た情報は、追加して記入し職員間で共有できるように努めている。また、介護相談員から新たな情報を聞く場合もあり、思いや意向の把握の一助となっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	（自己評価） 本人、家族様から生活歴や習慣を聞き、これまでのサービス提供者である介護支援専門員からの情報と併せてこれからのサービスに生かしている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	（自己評価） 既往歴の把握や毎日の定期的なバイタルチェックをし、注意深く様子観察をしている。申し送りやケース会で情報を共有している。	

自己評価	外部評価	項　　目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 日々の生活の中から思いをくみ、毎月ケース会を開き、その人らしい生活ができるよう家族の意見を反映し、モニタリング、アセスメントを行い、全員で検討しケアプランの評価をしている。 (外部評価) 利用者毎の担当制を取っており、家族等の意見を反映して担当職員が介護計画の原案を作成し、会議で職員間で話し合い作成している。介護計画は職員の気づきと提案を大切にし、利用者が挑戦していきたいことを盛り込んでいる。モニタリングは３か月に１回行い、評価をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個別の生活記録に細かく記録している。申し送りや申し送りノートにより職員間で情報が共有され、支援に生かされている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) その時の変化に応じて職員や家族様と相談し最良と思われる方法で支援している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 移動図書館の利用に自治会を通して防災訓練に参加したり、地方祭を楽しんだりしている。また、ボランティアの方々の協力による歌、楽器演奏を楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項　　目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 母体の病院より、毎週往診があり、体調の悪い利用者様は病院と連携し受診している。本人様、家族様の意向をもとに適切な医療を受けられるよう支援している。 (外部評価) 夜間の対応も可能で、毎週往診があり健康管理をしていることから、母体病院の協力医をほとんどの利用者はかかりつけ医としている。母体病院に事業所担当の看護師がおり、スムーズに相談することができる。協力医への受診は、職員が同行して対応している。また、専門医への受診は、家族の協力を得て受診することができる。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 母体の病院には、担当の看護士がおり、利用者様の状態に変化があるときは相談し、適切な受診や看護を受けられる。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 母体の病院にほとんど入院するため、連携体制は整っている。家族様や利用者様に安心して入退院をしてもらえる。また、早期退院に向けて、家族様、医師、看護士とも十分話し合いリハビリを行う。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 早い段階から重度化した場合や終末期に向けた話し合いを行い、利用者様がよりよい環境で生活できるよう、他施設の利用を視野に入れ提案し、利用者様本位で支援を行っている。 (外部評価) 入居時に、事業所には看護師がいないことと、事業所で対応できる内容を利用者や家族に説明している。利用者が重度化した場合には、他の施設等への変更を含め、家族に検討してもらっている。また、「緊急時対応の同意書」を利用者や家族に記入してもらい、緊急時の希望を確認し、職員間で共有している。	

自己評価	外部評価	項　　目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容（外部評価のみ）
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	（自己評価） 定期的に心肺蘇生やＡＥＤの使用方法、応急手当など、消防職員を招き、講習を受けている。急変時の対応マニュアルも作成している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	（自己評価） 定期的に避難訓練を実施している。運営推進会議において、災害時、火災時には協力を依頼している。避難経路、避難場所は全職員把握している。災害時のマニュアルも作成している。 （外部評価） 消防署の協力を得て避難訓練を実施している。訓練では、夜間の火災を想定して非常階段からの避難を行い、消防署からアドバイスをもらうなど、反省を行いながら繰り返し訓練をしている。今年度は、自治会の防災訓練の日に合わせて約３０名の自治会員の参加協力を得て、事業所の避難訓練を実施した。また、自治会の参加者に事業所内部の構造や訓練の様子を見てもらい、訓練の意見をもらうなど地域との協力体制が築かれている。	
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	（自己評価） 勉強会やケース会で利用者様の自尊心を傷つけない声かけや対応を心がけている。個人情報保護法に基づき、利用者様の個人情報を外部に向けてもらさないようにしている。 （外部評価） 年間計画を立て、月１回職員が講師となり勉強会を開催している。認知症ケアなどのテーマで、利用者の尊重やプライバシーの確保など、職員は理解して対応している。トイレや着替えの介助時には、扉を閉めて利用者のプライバシー保護に努めている。職員は、利用者の誇りや自尊心、これまでの人生を尊重したいとの思いを持って支援している。	今後、管理者は個別ケアに力を入れていきたいと考えており、より一層利用者一人ひとりの思いや意向の把握に努め、利用者の人生を尊重して支援する取組みを期待したい。また、新人教育では、利用者の尊厳を大切にする意識が根付くよう働きかけ、サービスの質の向上につながる取組みを期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	（自己評価） 利用者様の表情やしぐさ、利用者様同士の会話の中から思いや気持ちをくみとり、自己決定できるよう誘導している。	

自己評価	外部評価	項　　目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 利用者様一人ひとりのペースを大切にしている。生活のリズムや体調に合わせ、無理をしないようできるだけ希望にそった支援をしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 自分で服を選べる人は自分で選んでもらっている。自分で選べない人は、職員が一緒に選んだり、家族様が選んだりする。服装や髪の乱れは職員が気を配っている。散髪は定期的に散髪屋さんがホームに来てしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者様に食事の下ごしらえをしてもらっている。食事のときは職員も利用者様と一緒に食べて楽しく会話をしながら食べている。食後はお盆拭きをしてもらい、その人の力を生かしている。 (外部評価) 職員がユニット毎に季節の食材や畑で取れた野菜を使い、手作りの料理を提供している。利用者の好きなメニューを聞き、お寿司や煮物など好みのものを提供したり、庭に出てカレーを食べたりするなど、利用者が食事を楽しめるよう工夫をしている。利用者と職員が同じ食卓を囲み、同じ食事を楽しそうに食べている。朝食には、パン食を好む利用者にも対応している。また、ユニット毎に外食の計画を立てたり、花見にはお弁当を持って出かけたりしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 毎日の食事量、水分量を記録している。食事量や水分量が不足しているときは摂取してもらえるように工夫している。食器も軽くて持ちやすいものにしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、口腔ケアを行っている。ある程度自分で磨いてもらい、職員が洗えていないところを磨いている。	

自己評価	外部評価	項　　目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容（外部評価のみ）
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	（自己評価） 排泄の記録をとり、排泄パターンを把握し、適宜トイレ誘導している。変化があったときにはケース会で話し合い共有している。羞恥心に配慮している。 （外部評価） 利用者がトイレで排泄できるように努めている。排泄の記録を基に排泄パターンを把握し、利用者に合わせてトイレ誘導を行っている。目が見えにくい利用者には、夜間にポータブルトイレを使用してもらうなど、できるだけ利用者自身で排泄できるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	（自己評価） ヨーグルトなどの整腸作用のあるものを摂ったり、水分を多く摂ってもらっている。また、運動や散歩を促している。一人ひとりの排泄パターンを把握し、自然排便に努めている。必要に応じて医師に相談し便秘薬で対応している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	（自己評価） 利用者様のプライバシーを確保しながら、自立している利用者様は本人のペースを見守っている。入浴の順番を配慮している。立位が困難な利用者様はシャワー浴をしている。 （外部評価） 週２回を基本として入浴することができ、利用者の希望に応じて、毎日入浴することができる。浴室には、家庭浴槽が設置され、浴槽をまたぐことが困難な利用者には、毎朝足浴をしたり、シャワー浴をしたりして対応している。浴槽に入浴剤を入れることもあり、利用者がリラックスして入浴が楽しめるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	（自己評価） その日の利用者様の体調に合わせていつでも休息できるようにしている。部屋の温度や湿度、明るさや音にも配慮している。	

自己評価	外部評価	項　　目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容（外部評価のみ）
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	（自己評価） 服薬ファイルがあり、確認している。変更時は申し送り、申し送りノートで確認している。誤薬がないよう薬が入っている袋に名前、日付、朝、昼、夕と記し、服薬する前に本人の前で声に出し復唱している	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	（自己評価） 一人ひとりのできることを見出し、楽しんでもらっている。季節に合わせて行事計画を立て、外出したり、散歩や外気浴をし、気分転換を等の支援をしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	（自己評価） 利用者様の体調や天候に合わせて外気浴や散歩をしたり、買い物に出かけている。家族様と食事に行く利用者様もいる。 （外部評価） 駐車場に設置しているパラソルの下で、歌を歌ったり体操をしたり、レクリエーションを楽しみながら、順番に散歩に出かけられるよう支援している。また、職員と一緒に近くのスーパーに買い物に行くこともある。季節に応じて、花見や紅葉狩り、温泉に足湯や外食に出かけたりできるよう支援している。また、家族の協力を得て外出をする利用者もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	（自己評価） お金を管理している利用者はいない。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	（自己評価） 家族様から電話はあるが、こちらからかけることはない。数名の利用者様は年賀状を出している。	

自己評価	外部評価	項　　目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 季節の草花を玄関周りや花壇に植え、畑には季節に合わせた作物を作り、季節感を感じてもらっている。また、季節に合わせたディスプレイを玄関やリビングに掲示している。 (外部評価) 玄関やテーブル、洗面台など随所に生け花が飾られ、季節感や自然の華やかさを感じることができる。共用空間の加湿や換気に注意し、利用者が気持ちよく健康的に過ごせるよう配慮している。掃除は、利用者と一緒にモップをかけたり窓の溝をふいたりして、清潔が保たれている。事業所の横には畑や花壇、パラソル付きのテーブルセットが置いてあり、外気浴などを楽しむことができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 気の合う利用者様が談話したり、テレビが観えるよう適度な距離間は保てるよう配慮している。廊下にソファーを置き、気分転換できるようにしている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 家族様に依頼し、馴染みのものを持って来てもらったり、写真を持ってきてもらったりしている。居室内には写真を貼り、居心地よく過ごせるような工夫をしている。 (外部評価) 居室は、利用者の使い慣れた物など思い思いのものを持ち込み、レイアウトを工夫するなど一人ひとり特色のある空間となっており、生活感が伝わってくる。壁には大きく引き伸ばした家族や行事の写真を飾っている利用者もいる。物がありすぎると混乱が起こる利用者の居室には、物を少なくしシンプルにしている。 ベッドから転落の危険のある利用者には、床に布団を敷いて対応するなど、利用者の身体状況に合わせた居室づくりをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 居室にはネームプレートを表示し、トイレや浴室の場所も分かるように工夫している。また、廊下には手すりがあり、それを利用し、歩行訓練や自己リハをしている。	